

## 2012年度第3回執行理事会議事録

期 日：2012年9月14日（金）13:00～15:00

場 所：堺市産業振興センター会館 会議室1（堺市北区  
長曾根町183番地5）

出席者：石渡会長 ウォリス副会長 渡部副会長 齋藤常  
務理事 伊藤 井龍 坂口 高木 内藤 中澤 西  
平田 星 山口 山路 山本（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：保柳 松田

\*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者16名，委任状  
2名，合計18名の出席。

### I 審議事項

#### 1. 財務関係の検討事項

##### 1) 年会関連：巡検の実施形態に関して

来年度の巡検から旅行者に委託することに関して，  
最小遂行人数や経費等の詳細を行事委員会と会計にて検  
討することが提案され，了承された。

##### 2) 学会が特に企画した場合の特集号の印刷負担金

地震関連特集号の長大論説に，ページ超過チャージお  
よびカラーチャージの高いものが多くでた。今回は，招  
待論文についても計画段階での予算措置等をしていない  
こともあり，規定どおり請求することにした。

##### 3) ジオルジュ2号の印刷部数およびその費用に関して

次号（11月発行予定）の現時点での収支見積りでは27  
万円の赤字が見込まれている。これについて検討し，発  
行することの意義を確認し，支出することが了承された。

##### 4) 名誉会員および会費のあり方も含めたシニア会員制 度の検討と将来の財務基盤に関して

西理事より，向山理事により作成された会員数と学会  
収入の漸減状況，年齢構成の解析結果等にもとづき，今  
後の会員数と学会の財政の関係について改めて説明され  
た。特に退職に伴って退会するケースが多く，シニア会  
員の引き留め策の必要性が指摘された。名誉会員制度も  
含め会員サービスおよび健全な財務体制のあり方を検討  
するためのWGを運営財政部会の下に設置することが提案  
され，了承された。

##### 2. 環境変動史部会の設立について

環境変動分野が急速に盛り上がっているにも関わらず，  
この分野を対象とする専門部会がなかった。その受け皿と  
なる「環境変動史部会」を設立したいとする趣意書が提出  
され，了承された。

##### 3. その他

##### 1) 日本地球惑星科学連合の編集委員会委員ならびに編集 運営会議委員の推薦について

日本地球惑星科学連合より，新ジャーナル発行のため  
の編集委員会委員ならびに編集運営会議委員の推薦依頼  
があり，井龍理事（編集委員），ウォリス理事（運営会議

委員）を推薦することが了承された。

##### 2) 見学旅行名称変更に伴う，規則類の変更追加について 見学旅行の名称変更に伴う規則類の変更に関して，「野 外調査安全指針」付則1）の文言「見学旅行→「巡検」 に変更したい旨提案があり，了承された。

##### 3) Island Arc誌名変更手続き案

先に完全オンライン化とともに投稿の魅力を上させ  
るために誌名を変更したいと執行理事会に提案し了承さ  
れたので，広く誌名の募集をし，Editorial Advisory  
Boardと編集委員会で投票して決定する。来年5月の総会  
までに共同運営他学会との協議および規則変更手続きを  
進めていく旨，伊藤理事より報告があった。誌名決定方  
法の詳細は編集委員会に協議してもらう。

##### 4) 地震，火山，津波，海底地すべりなどの国際研究組織 への協力について

IUGS小川勇二郎会員理事からアジア太平洋地域の自然  
災害の国際協力のために，災害関係の情報を集めて欲し  
いと依頼があった。地質学会としてできることを小川会  
員と執行理事会とで検討する。

##### 5) 地質学会編集の書籍等の進行状況の確認

企画されてから時間がかかっている学会出版物（出版  
社から発行のものも含む）の進行状況を確認し，学会事  
業として発行を推進していくことが確認された。

### II 報告事項

#### （1）運営財政部会：総務委員会（西・山本）

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

1. 笹川科学研究助成の募集：学術研究部門10/1-10/15，  
実践研究部門11/1-11/15→HP，geo-flash，News 掲載
2. 山田科学振興財団より2013年度研究援助候補者の推薦  
依頼（援助対象2013/10-2015/03：地質学会からは3件（メ  
切10/1-2/28，学会メ切1/31）→HP，geo-flash，News  
誌に掲載。2012年度応募の1件は不採択の通知があった。
3. 土壌環境センター，日刊工業新聞より，2012土壌・地  
下水環境展（10/17-19）協賛依頼：例年通り承諾
4. 第3回日本ジオパーク室戸大会組織委員会（11/2-11/  
5）より，同大会への後援名義使用の依頼：承諾，その  
後参加要請もあり。
5. ひょうご恐竜化石国際シンポジウム実行委員会（小林  
文夫会員）より，国際シンポジウム「白亜紀前期の恐竜  
研究最前線」ほか関連行事の後援依頼（2013年3月16日  
-17日）を承諾
6. 第13回子供のためのジオカーニバル（11/13-14）企画  
委員会より後援名義使用依頼：例年通り承諾
7. 広島大学教員公募10/12締切り→HP，geo-flash，News 掲  
載
8. 熊本大学教員公募10/26締切り→HP，geo-flash，News 掲

載

<その他>

1. 日本アイソトープ協会役員挨拶：会長有馬朗人
2. 天文学会より交換雑誌天文月報（2012/09より）配布の中止連絡
3. Blackwell Publishing Asia Pty Ltdより、合併の全ての手続きが完了したのでWiley Publishing Asia Pty Ltdと社名変更の通知があった。社名変更に伴う体制の変更はないとのこと。
4. 地質情報展事務局より、開会式の正式通知（9/15, 12:30-13:00）と会長の挨拶要請があった。

<会員>

1. 入会者（6名）  
賛助会員（1社）：旭硝子資料合資会社  
正会員（3名）：福光さゆき 江藤典子 霜島康浩  
正〔院割〕会員（1名）：浅田舞紀  
正〔学部割〕会員（1名）：庄司雄騎
2. 退会者（4名）  
正会員（4名）：中沢理久 小城祐樹 小倉博之 中村悠
3. 逝去者（名誉1） 橋本光男  
吉田 義（逝去日：2012年3月2日）
4. 8月末日会員数  
賛助：26, 名誉：72, 正会員：3980（正会員：3786, 正〔院割〕会員：184正〔学部割〕会員：10）, 合計 4078（昨年比-131）

<会計>

- ・大韓地質学会会長の招待費用：旅費滞在費で約12万円
- ・フィールドノート2000部の増刷：印刷費724,500万円
- ・大阪大会巡検の実施状況：A班については、現状では3万円の赤字が予想されているが、年会費用として補てん。
- ・出版著作権管理機構より複写使用料の分配10月末入金：2010/23,000円, 2011/22,000円

#### (2) 広報部会：広報委員会（内藤・松田）

- ・ジオルジュ2号の編集開始
- ・ジオルジュの宣伝のため、創刊号地団研の大会、大阪地質情報展・市民講演会で配布。

#### (3) 学術研究部会：行事委員会（星）

- ・行事委員長より大阪大会の状況が報告された。巡検は全コース実施される予定。災害関連緊急展示も実施。最終日の夜間小集会で学術大会改革のためのオープンディスカッションを行う。
- ・仙台大会の準備状況が報告された。予定会場の都合により大会日程を9/14-16に変更。プレ・ポスト巡検を仙台LOCと検討し、巡検コースが決定された。市民講演会とシンポジウムはLOCで検討中。
- ・堆積学会との共催による第2回津波堆積物ワークショップ（本年10月6日～8日）は準備を進めている。

#### (4) 学術研究部会：国際交流委員会（井龍）

- 1) 日韓学術交流についてのスケジュール

大韓地質学会会長ほか3名の方が14日に大阪入り、15日午前：学術交流会議（大阪自然史博会議室）、午後：地質情報展視察・授賞式前の会長ご挨拶・レセプション

- 16日昼食会（府立大学術交流会館応接室）、午後：国際ワークショップ（副会長 講演）、夜：俞会長は帰国
- 2) 本学会の英文概要紹介文について  
石渡会長により学会の英文概要が作成されたので、今後活用したい。

#### (5) 学術研究部会：その他

地層名情報の一元管理を産総研との共同で進める件（了済済み）に関して、産総研が管理するデータベースの準備が進んでいるとの報告があった。

#### (6) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（山路）

- 1) 編集状況報告（9月10日現在）  
2012年度投稿論文 総数85編〔総説4（和文4）、論説50（和文46・英文4）、報告6（和文6）、ノート5（和文5）〕口絵8（和文5 英文3）・巡検案内書10  
査読中32編 受理済み 41編（うち通常号16 特集号25）  
・118巻9月号：特集号「東北地方太平洋沖地震：統合的理解に向けて（その3）」と通常号原稿3編（約65頁・校正中）  
・特集号「東北日本弧における活火山の長期活動評価」（世話人 長谷川健ほか）が投稿された（2012.7.20受付）  
・大阪大会巡検案内書（CD-ROM）は、補遺として118巻8月号とあわせて会員に配布した。  
・118巻3月号掲載論文のJOL/doi番号に誤植が見つかり、印刷所の責任で8月号に訂正シールを掲載し、J-STAGEについては訂正版PDFを公開する対応をおこなった。
- 2) 査読システムScholar Oneの契約更新：今後は毎年更新はせずに契約継続となる。

#### (7) 編集出版部会：Island Arc編集委員会（伊藤）

- ・編集状況報告  
2012年21巻の予定総ページ数は329pと昨年の825pより大幅に減少したが、投稿数は増加傾向であり回復が見込まれる。また誌名変更に関して提案を募集し、来年5月までに決定する方針が確認された。新誌名はEditorial Advisory Boardと編集委員が選定し、理事会で承認し、総会で報告する。あわせて規則類の変更手続きを進める。

#### (8) 企画出版委員会（山口）

- 1) 文科省の「一家に一枚」ポスターに応募の「地球と生命と私の歴史」は、不採択であった。
- 2) 超歴史年表原稿は現在修正中
- 3) 電子出版物として下記の2件が提案され、校閲作業中である。
  - ・白滝ジオパークの地質（加藤孝幸ほか）
  - ・ジオツアー・ジオパーク・地学オリンピックー地学を楽しく（吉田勝ほか）
- 4) 三浦半島（蟹江ほか）のリーフレット原稿については、進捗なしの現状。

5) フィールドジオロジーシリーズ(本学会編, 共立出版)の完結  
第8巻「火成作用」(高橋・石渡)  
第9巻「第四紀」(遠藤・小林)発売)と第9巻の正誤表について(添付: 正誤表, 共立のHPで9/12から公開)  
<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/bookdetail/9784320046894>

6) 長瀬探検マップ 企画検討中

7) リーフレット津波堆積物は堆積学会の協力で企画中

(9) 社会貢献部会(高木・平田・中澤・保柳)

2012年度地質の調査研修の参加者募集は定員6名に達し, 実施が確実となった. 来年度は春と秋に企画したい. 宣伝活動も実施する.

(10) ジオパーク支援委員会(高木)

支援委員会委員の一部交替があり報告された.

(11) 地学オリンピック支援委員会(平田)

今年のアルゼンチン大会に持って行くための日本の地質図は産総研の協力を得て準備した. 来年はインド大会であり, そのための募集を開始する. 更なる拡大のために小中学生向けの研究発表会「地球にわくわく」を実施することが報告された.

(12) 震災復興事業プラン検討WG(高木・西・藤本・斎藤)

今年度事業プランに対し2件の応募があり, 検討の結果下記の1件を採択した.

・仙台平野海岸部における津波被害と液状化被害の識別(川辺孝幸ほか)

(13) 連携事業委員会(保柳)

JANESと打ち合わせ, 昨年度の事業報告書のフォローアップを行う.

(14) 支部長連絡会議(渡部)

9月16日(13:00-14:00), 大阪で支部長会議を開催, 全支部出席予定.

(15) 地質技術者教育委員会(山本)

今年2回目の会議を実施し, 大学のフィールド実習, 地学系就職先採用状況や災害関連業務等の情報共有が行われた.

2012年10月13日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長(代表理事) 石渡 明

署名人 執行理事 斎藤 真